７月２日　校長配布資料

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進
～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

～６年３組・６年４組・３年１組　授業訪問～

学習規律「須恵一スタンダード」の実施状況確認のための授業訪問で、今日は６年３組、６年４組、３年１組の訪問を行いました。

最上級生の参観の後３年生の参観を行うと「学習規律の意味を踏まえた指導」「教師の積極的な関りを継続する指導」と学習内容はもちろん学習規律も子どもの発達段階に合わせて指導が行われていることがよく分かります。

６年３組では算数科で「場合を順序よく整理する」が行われていました。６年３組では学習の流れが子ども達自身によく理解されており、自ら学習に取り組む姿がよく見られました。また、考えを共有する場面では、それぞれの考えのよさや違いがしっかりと共有されていました。子ども達に学習を任せつつも、ポイントポイントで教師による意図的な価値づけが行われています。

６年４組も３組と同じ学習内容でしたが、導入において自作の問題場面が提示されました。学級の子どもの特徴に合わせた導入が行われています。３組もそうだったのですが、学習のあらゆるところで子どもが活躍する場面が設けられています。様々な一工夫の積み上げが、子ども達の学びにつながっています。

３年１組では、国語で「様々な仕事について紹介する」学習が行われていました。「お仕事紹介をする」という明確な目的意識をもって学習に取り組み、どの子どももノートいっぱいに自分の考えを書きこんでいました。子どもを褒める、認める、励ます際の担任の先生の表情がとても温かく、子ども達の頑張りの支えとなっていました。

６年３組：様々な仕組みが自ら学ぶ姿につながっています。

６年３組：共有による考えの価値づけ

６年４組：静けさの中で鉛筆で書く音だけが伝わってきます。

６年４組：子どもの考えを生かす授業展開

３年１組：学びを支える教師の存在

３年１組：ノートいっぱいに自分の考えが書かれています。